

筑前町多目的運動公園



子どもからお年寄りまで楽しめる多目的運動公園。パークゴルフ場やナイター設備が整った野球場などを備える



充実した大型遊具がそろった「こども広場」。芝生も広く、草スキーや駆けっこもできる



同公園で活動する筑前町体育協会パークゴルフ部の皆さんと。あらゆる世代が気軽にプレイできるパークゴルフは、地域コミュニティの活性化につながっている

筑前町立大刀洗平和記念館



かつて東洋一とされた大刀洗飛行場があった筑前町。記念館では、命の尊さ、平和の大切さを語り継ぐために、世界で唯一現存する零式艦上戦闘機三二型や、特攻隊員が遺した言葉など、多くの戦時資料を展示している



この日は地元中学生が館内の展示について知事に説明。博多湾から引き揚げられた九七式戦闘機について英語で紹介する場面も



ボランティアガイドや地域おこし協力隊の皆さんと懇談。同館では朗読講演や絵手紙展などさまざまなイベントを通して平和への思いをつないでいる

団体紹介



町内の中学生によるボランティアガイド。昨年夏、自ら応募集まった5人が、手づくりのボードなどを使った分かりやすい説明で来館者にガイドを行った。夏休み限定の企画であったが、自分の言葉で語り掛ける熱心な姿が好評を博し、昨年11月に再び活動を行った

筑前町立大刀洗平和記念館
中学生ボランティアガイドの
皆さん



「皆さんの活動が地域の大きな力や成果となるように、ぜひ後に続く人たちに自身の実験を伝えていってください」と知事



「筑前町食生活改善推進委員会」会長の小澤純子さん。塩分の少ないレシピの紹介や出張講座などの啓発活動を行い、町民の食生活の改善に取り組む

安の里公園



「食と農」をテーマにした町の一大イベント「ど〜んとかかし祭」のために制作された「ゴジラ」の巨大わらがし。制作には町民ボランティア約200人が参加し、県内外から約11万人もの人々が見学を訪れた ※「ゴジラ」の展示は終了

©TOHO CO., LTD.

町の愛好家による「日向ひよっこ踊り」で歓迎を受けた



ファーマーズマーケットみなみの里



地元食材の手料理をビュッフェ形式で楽しむことができる農村レストラン。おかわり自由のかまど炊きご飯や筑前煮が人気



直売所では、日本一の大きさを誇る品種「愛宕梨」を試食。生育・販売状況の説明を受けた



筑前町のお米を使った米粉パンは、直売所の看板商品。食パンをはじめ、あんパン、メロンパン、総菜パンなど種類も豊富

地域で
頑張る皆さん

対話

小川知事



女性農村アドバイザーの品川裕美さん。自身が考案した筑前クロダマルを使ったドレッシングは人気商品で、地域の食の活性化に貢献している



イタリアで農業と出会い、農家となった林寛輔さん。大豆の生産や加工品開発を行う。農家民泊など「農」を通したライフスタイルも提案



走るお母さんランナーの植木千穂枝さん。昨年11月の市町村対抗「福岡駅伝」では町の代表として出場し、筑前町を町村の部1位に導いた



「筑前若者会」実行委員長の松本龍彦さん。巨大わらがし制作や鉄塔イルミネーションなど多くの企画に取り組み、町を盛り上げている



なかがわまち
那珂川町

平成29年1月31日

小川知事は、
人口が5万人を超え、
平成30年10月の
市制施行を目指す
那珂川町を訪れました。

那珂川町複合児童福祉施設 ふれあいこども館



利用者の皆さんと。子育て支援センターと児童館の機能を兼ね備えた同館は那珂川町の子育て支援の拠点となっている



就学前の子どもと保護者が参加する「すくすく広場」。手遊びや工作などさまざまなプログラムが用意されている



この日行われていたプログラムに知事も飛び入り参加。子どもたちと一緒にゲームを楽しんだ

まご ぐち げつ じょう
松口月城記念館



那珂川町に生まれた月城は開業医として地域の医療に貢献する傍ら、漢詩や書道などの分野でも才能を発揮。館内には貴重な資料や書画などが展示されている



月城は吟詠漢詩家としても全国的に知られ、生涯で1万数千首に及ぶ漢詩を作ったとされる



月城の代表作である「名槍日本号」の詩の前で

博多南駅前ビル



JR博多南駅と直結した博多南駅前ビル。町民情報ステーションや会議室、パスターミナルなどがあり、町の玄関口としての役割を担う



町のオリジナルメニュー「なかがわタコス」も登場。町内の飲食店などで提供されており、那珂川町の食材を使ったバラエティーに富んだ味が魅力

ビル内では、空きスペースを活用してイベントやワークショップが催され、町の交流拠点となっている。この日行われていたのはベテランの革職人によるレザークラフト講座

しょう
株式会社マルサン醤油醸造元



1910(明治43)年創業のマルサン醤油。那珂川町のきれいな水が醤油づくりの源となっている



店内には、醤油、味噌、つゆ、たれのほか、地元農産物や手作りパンなど豊富な商品が並ぶ



豆腐と相性抜群のドレッシングや大根おろしポン酢など、4代目である勝野光代さんがお母さん目線で開発したオリジナル商品も人気

団体紹介



ことば那珂川

町からの委託を受けて活動するまちづくりオフィス。博多南駅前ビルを拠点に、町の魅力発信やイベントの開催、コミュニティの場づくりなど、駅や駅前周辺のにぎわいづくりに取り組む。現在、駅前ビルのリノベーションに向けた住民参加のワークショップなどにも力を入れている



「子育て支援や移住定住促進への取り組み、市制施行へ向けた町の皆さんの努力に改めて敬意を表したい」と知事



地域おこし協力隊の長尾牧子さん。自然豊かな南畑地区のまちおこし組織「南畑ぼうぶら会議」の活動をサポートし、同地区を活性化している



「NPO法人 絆・なかがわ」代表理事の森千春さん。小中学校児童・生徒指導支援員としての活動や子どもの居場所づくりなど青少年支援に取り組む



「ふれあいこども館」副館長の井口セツ子さん。地域ぐるみでの子どもの見守りや親へのサポートが「子育てしやすい町」につながっていると語る



「株式会社マルサン醤油醸造元」4代目の勝野光代さん。子育てと仕事を両立し、商品開発やネット販売による販路拡大に取り組む



「ことば那珂川」ディレクターの坂口麻衣子さん。博多南駅前ビルの活性化のため、自立した運営が可能となる仕組みづくりに取り組む

地域で
頑張る皆さん

対話

小川知事

太宰府天満宮



太宰府天満宮の由来や歴史について説明を受ける知事。「学問・至誠・厄除けの神様」として天神様(菅原道真)を祀るこの場所には年間800万人の参拝客が訪れている

万葉集にも歌われた太宰府の梅の花。福岡県の花として広く県民に親しまれている



観世音寺



宝蔵には平安・鎌倉時代の仏像16体が収められている。最も大きな木造馬頭観音立像は像高約5m

小川知事は、梅が見頃を迎え、多くの観光客でにぎわう太宰府市を訪れました。



太宰府市

平成29年2月16日



日本最古といわれる国宝の梵鐘を鳴らす知事。菅原道真も聴いた鐘の音が響いた



天智天皇の発願によって建てられた観世音寺は数多くの文化財が残る国指定史跡

九州国立博物館



国内4番目の国立博物館として平成17年に開館。開館以来の来館者数は1400万人を超える



館内案内や展示解説を行うボランティアや「九州国立博物館を愛する会」など、多くの人たちの支えが同館の盛り上がりにつながっている

国分アンビシャス広場



子どもたちの居場所づくりとして県内各地に開設されているアンビシャス広場。今回訪れた国分アンビシャス広場では多くの子どもたちが「和ごま」遊びに夢中になっている



広場のスタッフの皆さんと懇談。知事は「広場の運営を支えるボランティアの皆さんには心から感謝します」とお礼を述べた

地域活性化複合施設「太宰府館」



太宰府館では木うその絵付けなどの体験プログラムや太宰府観光の情報収集が可能



太宰府天満宮の「鳥替え神事」で用いられる「木うそ」。これまでの悪いことを「嘘」にして今年の吉に取り替えるなどの意味がある



太宰府名物の梅ヶ枝餅づくりも体験。自分で焼いた出来立ての餅は味も格別

団体紹介



公益財団法人
古都大宰府保存協会
大宰府史跡解説員

太宰府の歴史や文化財に精通する史跡解説ボランティア。63人のメンバーが、史跡案内や解説を通して古都大宰府のPRや史跡保存への理解促進に貢献している。市内の史跡や文化財の整備・保存・維持管理、広報普及事業を行う古都大宰府保存協会から委嘱を受けて活動



「まちを歩く大勢の観光客の姿を拝見し、大変心強く感じた。皆さんと力を合わせて地域の強みに磨きをかけたい」と知事



「太宰府水から川る会」代表の大隈和子さん。御笠川を以前のような豊かな川として甦らせようと、河川の清掃活動や自然観察会などを行う



「ほっこり太宰府倶楽部」代表の青柳宏征さん。太宰府の歴史や行事を取り入れたイベント「ほっこりさいふ詣り」を開催。地域を盛り上げている



「協働わーくす エ・コラボ」代表の田畑薫さん。障害のある人の働く場を太宰府につくるため、資源ごみの回収リサイクル活動などを行う



「大宰府万葉会」代表の松尾セイ子さん。万葉集の読み方を学ぶ講座や、市内の歌碑巡り、万葉衣装をまとった歌会などを行う



県立福岡農業高等学校食品科学科の古賀薫未さん。企業と連携し、太宰府市産の梅を活用した商品を多数開発する梅研究班の班長として活躍

地域で
頑張る皆さん

対話

小川知事